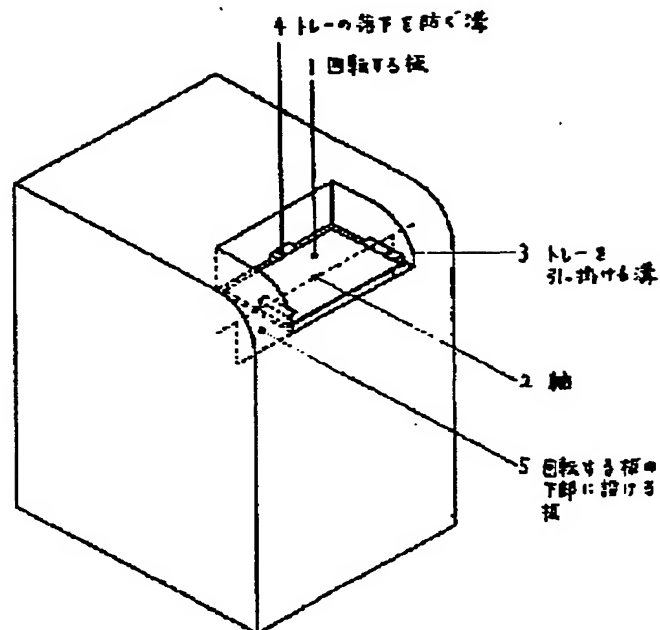


EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 05124708
PUBLICATION DATE : 21-05-93
APPLICATION DATE : 31-10-91
APPLICATION NUMBER : 03355377

APPLICANT : KAJIMURA BUNPEI;
INVENTOR : KAJIMURA BUNPEI;
INT.CL. : B65F 1/16
TITLE : REFUSE BIN FOR FAST FOOD SHOP



ABSTRACT : PURPOSE: To allow a user to throw away a vacant package into a refuse bin with one hand by opening or closing a cover provided at an inlet with a tray, not a hand.

CONSTITUTION: A plate 1 rotated centering on a shaft 2 is provided as the cover of an inlet, and grooves or hooks 3 to be inserted with the end section of a tray are provided at both the right and left ends of the plate 1. Grooves or hooks 4 for preventing the dropping of the tray are provided on the lateral widths and depth side of the plate. A user mounts the tray on the rotary plate 1 while the short side of the tray is located on this side. The tray is inserted into one of the right and left grooves or hooks 3, it is hooked and lifted, then the tray is rotated together with the plate 1, the inlet is opened, and a vacant package is dropped into a refuse bin. The grooves or hooks 4 are provided on the lateral widths and depth side of the rotary plate 1, thus the tray is prevented from being dropped into the refuse bin even if a hand is removed when the tray and the rotary plate 1 are tilted.

COPYRIGHT: (C)1993,JPO&Japio

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-124708

(43) 公開日 平成5年(1993)5月21日

(51) Int. Cl.⁴

B 6 5 F 1/16

識別記号

庁内整理番号

8513-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数6(全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平3-35377

(22) 出願口 平成3年(1991)10月31日

(71) 出願人 591251289

梶村 文平

神奈川県相模原市相武台2丁目20番6号

コーポサントーワ203号室

(72) 発明者 梶村 文平

神奈川県相模原市相武台2丁目20番6号

コーポサントーワ203号室

(54) 【発明の名称】 ファストフード店用ごみ箱

(57) 【要約】

【目的】 次の各項の効果を奏するごみ箱を、提供すること。

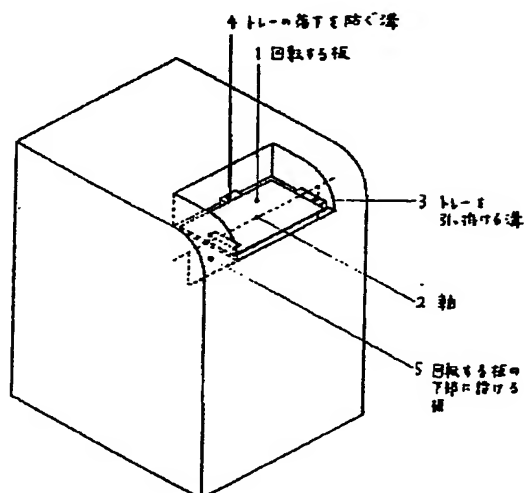
(a) トレーに載せた飲食後の空パッケージを、片手で簡単に投入できる。

(b) ごみ箱の中身が、利用者や他の客の視界に入らない。

(c) トレーを使わないで、何かを投入することも簡単にできる。

【構成】 (a) 投入口のふたとして、回転する板を設ける。

(b) トレーを使って開閉できるように、回転する板にトレーの入る溝を設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の各項の内容を備えたごみ箱。

(ア) 軸を中心に回転する板、を設けている。

(イ) その板に、トレーの入る溝、又は、かぎを設けている。

【請求項2】 次の各項の内容を備えたごみ箱。

(ア) 軸を中心に回転する板、を設けている。

(イ) その板に、トレーの入る溝、又は、かぎを設けている。

(ウ) 前記の板、又は、軸の下部に、更に板を取り付けている。

【請求項3】 次の各項の内容を備えたごみ箱。

(ア) 軸を中心に回転する板、を設けている。

(イ) その板に、トレーの入る溝、又は、かぎを設けている。

(ウ) 前記の板、又は、軸の下部に、前記の板より重くした板を取り付けている。

【請求項4】 次の各項の内容を備えたごみ箱。

(ア) 軸を中心に回転する円筒、又は、その円筒の一部を平らにしたもの、を設けている。

(イ) 前記の円筒、又は、その円筒の一部を平らにしたものに、板を取り付けている。

(ウ) その板に、トレーの入る溝、又は、かぎを設けている。

【請求項5】 次の各項の内容を備えたごみ箱。

(ア) 軸を中心に回転する円筒、又は、その円筒の一部を平らにしたもの、を設けている。

(イ) 前記の円筒、又は、その円筒の一部を平らにしたものの一部に、重りを備えている。

(ウ) 上記の円筒、又は、その円筒の一部を平らにしたものに、板を取り付けている。

【請求項6】 次の各項の内容を備えたごみ箱。

(ア) 軸を中心に回転する板、を設けている。

(イ) その板に、トレーの入る溝、又は、かぎを設けている。

(ウ) 前記の板の軸に、ばねを取り付けている。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、主にファストフード店で、営業用として使用のごみ箱に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 投入口に板をぶら下げたごみ箱を、ほとんどのファストフード店が採用している。この板は、ごみ箱の中身を客の視界から、さえぎる役目を果たしている。利用者は、この板を押して開いて、トレーをごみ箱の中まで入れて、ひっくり返し、飲食後の空パッケージを投入する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 一般に、利用者は、ト

レーを持っていない空いている方の手で、投入口にぶら下がった板を押して開いているようである。つまり、利用者は、両手を使わなければならない。そして、バッグを持っていたりして、片手で投入しなければならないことは、少なくない。この時、利用者は、トレーを持った手、もしくはトレーで、ぶら下がった板を押して開くしかない。この際に、このぶら下がった板が、トレーに載せた空パッケージを、かき出すようにごみ箱の外に出してしまうこともあり、従来の技術に係るごみ箱は、片手では非常に投入しにくいものである。両手を使わなければならないというのは、面倒なことでもある。この発明が解決しようとする課題は、トレーに載せた空パッケージを、片手で簡単に投入でき、かつ、ごみ箱の中身が客の視界に入ることのないごみ箱を、提供することである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 空パッケージを、ごみ箱の中へ片手で簡単に投入するには、投入口に設けるふたを、トレーを利用して開閉するのが、最も単純でよい。それを実現するための構成、及び使用法を以下に記す。

【0005】 (a) 投入口のふたとして、軸を中心に回転する板、を設ける。 (b) そして、この板の左右両端に、トレーの端部を入れるための溝、又は、かぎを設ける。

(c) 更に、この板の横幅、奥の辺にもトレーの落下を防ぐための溝、又は、かぎを設ける。利用者は、トレーの短い方の辺を手前にして、まず、前記の回転する板の上にトレーを載せる。次に、左右どちらかの溝、又は、かぎにトレーをずらして入れる。そして、そのままトレーを溝、又は、かぎに引っ掛けて持ち上げれば、トレーと板は、ともに回転し、投入口が開いて、空パッケージが、ごみ箱の中へ落下する。回転する板の横幅、奥の辺にも溝、又は、かぎを設けてあるので、トレーと回転する板を傾けているときに、利用者が手を離してしまっても、トレーが、ごみ箱の中へ落下することはない。以上の構成で、片手で簡単に、ごみ箱の中へ空パッケージを投入するという点は、実現できる。

【0006】 しかし、利用者がトレーを持ち上げて、回転する板を回転させたとき、軸から手前の投入口も開くことになるため、ごみ箱の中身が利用者の視界に入ってしまうという課題が、残る。また、ふたとなる回転する板が、自然に閉まるものでないと、この発明に係るごみ箱は、営業用として使えないであろう。(d) そこで、回転する板の下部にも、板を取り付ける。この板は、回転する板が常に水平のバランスを保つように、取り付け。そのためには、回転する板の軸に、下方へ垂直に取り付けるのが、最もよい。また、この板は、回転する板の軸から手前の投入口を、投入の際に、ふさぐ役割もあるため、縦の長さは、回転する板の軸から、ごみ本体の投入口、手前の辺までの長さと同様長さにする。この板を取り付けることにより、ごみ箱の中身が、利用

者、及び、他の客の視界に入ることはない。そして、利用者が、トレーを傾けた状態のまま、トレーを回転する板の中央よりはずせば、トレーは、回転する板の溝、又は、かぎから外れ、トレーをそのまま持ち上げれば、回転する板は、自然に閉まる。また、トレーを使わないで、何かを投入しようとする時には、回転する板を手で押して回転させ、投入すればよい。

【0007】

【作用】投入口のふたとなる、回転する板に設けた左右の溝、又は、かぎは、トレーの端部を入れて引っ掛け、回転する板とトレーとをいっしょに回転させるためのものである。回転する板の下部に取り付けた板は、回転する板を回転させたときに、ごみ箱の中身が利用者の視界に入るのをさえぎるためと、もう一つは、回転する板が常に水平のバランスを保つためにある。また、下部に取り付けたこの板に、「THANK YOU」と表示しておく、空パッケージを投入する度ごとに、メッセージが現れる。また、ここに新商品などの広告を表示して、効果的に客へ宣伝することもできる。従来の技術に係るごみ箱に対する。この発明に係るごみ箱の進歩性は、構成それ自体よりも、以下に記す発想にある。すなわち、投入口に設けたふたを、手ではなく、トレーを使って開閉するという発想である。

【0008】

【実施例1】図1は、〈実施例1〉を示す斜視図である。構成、及び、各部の具体的な付法の一例を、以下に記す。

(a) 投入口のふたとなる、回転する板の横幅について長さを、トレーの短い方の辺の約1.5倍とする。これにより、トレーの落下を防ぐために回転する板の横幅、奥の辺に設ける溝は、ひぎの様な短いものでも済む。なぜなら、トレーの落下を防ぐこの溝を、回転する板の中央に設けることにより、トレーを左右いずれの溝に寄せても、トレーの落下を防ぐ溝に、トレーが引っ掛かるからである。また、回転する板の横幅を、トレーの短い方の辺より少しだけ長い、ほぼ同じ付法にして、トレーを左右両方の溝に差し込むという方法もある。しかし、この場合は、トレーをずらして溝から簡単に外すということが、できない。

(b) 回転する板の奥行について

長さを、トレーの長い方の辺の約3分の2倍とする。これにより、回転する板の上にトレーを載せた時、トレーの手前、約3分の1が、はみ出すことになる。ここがトレーを持つ部分である。

【0009】(c) 回転する板の軸について

回転する板の奥行幅の中央に、設ける。これにより、回転する板が、常に水平を保つためのバランスを、とりやすくなる。なぜなら、軸の下方へ垂直に、板を取り付けるだけで、回転する板は、常に水平を保とうとするからである。なお、軸の固定方法としては、本体両端に穴を

開けるか、又は凹部を設けるかして、そこへ軸の両端を通すか、又は、はめ込んで固定する方法がある。別の方法としては、凹部が上面にある合を、本体両端の部分に固定して設け、軸の両端を、その凹部に載せて固定する方法もある。

(d) 回転する板の左右に設ける溝について

回転する板の軸より手前の位置に、設ける。なぜなら、回転する方向からすると、軸より奥に溝を設けても、意味がないからである。また、この溝は、かぎでも、回転させるには充分だが、投入口からはみ出したトレーの部分を、利用者が、何かのはずみに下へ押さえつけてしまっても、手前にひっくり返らないよう、かぎより溝の方がよい。この溝の深さは、トレーの短い方の辺の約10分の1の付法とする。その理由を以下に記す。すなわち、それ以上浅くすると、トレーを引っ掛けにくくなるし、それ以上深くしても、意味がない上、トレーを、回転する板の上に載せにくくなるからである。

【0010】(e) 回転する板の軸に下方へ垂直に取り付ける板について

縦幅の長さは、回転する板の奥行幅の、ちょうど2分の1の付法にする。これにより、回転する板をトレーとともに回転させたとき、下部に取り付けたこの板が、手前の開口部をふさぎ、ごみ箱の中身が利用者の視界に入るのを、避けることができる。横幅の長さは、投入口の横幅より少し長い付法にする。これにより、回転する板が、垂直になるまで回転したとき、回転する板の下部に取り付けたこの板が、投入口に引っ掛かり、それ以上は、回転する板が、回転しない。その目的を以下に記す。すなわち、回転する板が、垂直の状態以上に回転すると、下部に取り付けた板は、水平以上に持ち上がり、ごみ箱の中身が、利用者の視界に入ってしまう。これを防ぐためである。

【0011】(f) 本体、投入口の横幅と奥行について 回転する板に接触しないよう、回転する板の横幅と奥行より、それぞれ5mm～10mm程度長い付法にする。ただし、回転する板の横幅、手前の辺と本体、投入口とのすき間は、少なくとも10mm程度、必ず空けておいた方がよい。子供が、指をはさむ危険が、あるからである。その危険性を重視して発明したのが、〈実施例2〉、及び〈実施例3〉に係るごみ箱である。

【0012】

【実施例2】図3は〈実施例2〉を示す斜視図である。原理は、〈実施例1〉に係るごみ箱と同じものである。構成において、異なる点を以下に記す。

(a) 軸を中心に回転する半円筒を、投入口に、設ける。半円筒の直径の長さは、投入口の奥行の長さとはほぼ同じ付法にする。

(b) その半円筒の平らな部分に、トレーの入る溝、又は、かぎを設ける。

【0013】

【実施例3】図4は、(実施例3)を示す斜視図である。この実施例に係るごみ箱は、(実施例2)に係るごみ箱の構成を、変形させたものである。構成において、異なる点を以下に記す。

(a) 半円筒の直径の長さは、投入口の奥行き長さの2分の1程度にする。

(b) その半円筒の平らな部分に、投入口の面積と、ほぼ同じ面積の板を取り付ける。

(c) 更に、半円筒の下部に、板が常に水平を保つように重りを備え付ける。また、図4に係るごみ箱では、半円筒を採用しているが、円筒でも扇形の筒で構成することができる。なお、図4に係るごみ箱では、(特許請求の範囲)の(請求項5)に記すように、板に溝、又は、かぎを設けると、限定はしない。なぜなら、この実施例に係るごみ箱に関しては、板をトレーで押さえて回転させ、空パッケージを投入することが、十分に可能だからである。以上(実施例2)、及び(実施例3)に係るごみ箱の構成により、指をはさむ危険はなくなる。ただし、(実施例1)に係るごみ箱と比べて、コストは高くなるであろう。

【0014】

【実施例4】図5は、(実施例4)を示す斜視図である。これまでの実施例に係るごみ箱は、いずれも、一方からしか利用できない。それを二方向から利用できるようにしたのが、(実施例4)に係るごみ箱である。トレーの落下を防ぐために溝、又は、かぎを設けることができないため、利用者が、トレーをごみ箱の中へ落下させる心配がある。しかし、店舗によっては、どうしても必要になることがあるかもしれない。

【0015】

【実施例5】図6は、(実施例5)を示す斜視図である。これまでの実施例と同じく、投入口のふたとなる、回転する板を、トレーを利用して開閉する。異なる点は、回転する板を、ばねで水平に戻すという点である。また、回転する板の軸は、回転する板の中央ではなく、横幅、手前の辺に設ける。その理由を以下に記す。すなわち、この位置に設けて、ばねを裏に取り付ければ、これまでの実施例では必要とした、回転する板の下部に設ける板や半円筒を、必要としなくなるからである。

【0016】

【実施例6】図7は、(実施例6)を示す斜視図である。図7に係るごみ箱では、軸の位置を、図6に係るごみ箱と同じ位置に設けている。図1に係るごみ箱と同じく、回転する板の下部に、板を垂直に取り付ける。そし

て、その板に重りを備えるか、又は、板の材質を変えるかして、回転する板よりも、下部に設けた板の方が重くなるようにする。回転する板が、水平のバランスを保てるなら、回転する板の下部に取り付ける板は、回転する板より、小さい付法でよい。

【0017】

【発明の効果】この発明に係るごみ箱の奏する効果を、以下に記す。

(a) トレーに載せた飲食後の空パッケージを、利用者が、ごみ箱の中へ投入する際、両手を必要とせず、片手で簡単に投入することが、できる。

(b) 利用者が、空パッケージを投入している時も、それ以外の時も、ごみ箱の中身が、利用者や他の客の視界に入らないため、客に不快感を与えない。

(c) 利用者が、投入口のふたを閉めなくても、自然に閉まるため、営業用として採用できる。

(d) セルフサービスに対する、店側からの「THANK You」というメッセージや、新商品などの広告を、利用者へ効果的に伝えることが、できる。

(e) 利用者が、トレーを使わないで、何かを簡単に投入することもできる。

(f) 構成が単純なため、従来の技術に係るごみ箱のコストと、大差のないコストで製作できる。

以上である。

【0018】

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例1を示す斜視図である。

【図2】「トレー」の斜視図である。他の図面に対して、2.5倍拡大している。

【図3】実施例2を示す斜視図である。

【図4】実施例3を示す斜視図である。

【図5】実施例4を示す斜視図である。

【図6】実施例5を示す斜視図である。

【図7】実施例6を示す斜視図である。

【0019】

【符号の説明】

1 回転する板

2 軸

3 トレーを引っ掛ける溝

4 トレーの落下を防ぐ溝

5 回転する板の下部に設ける板

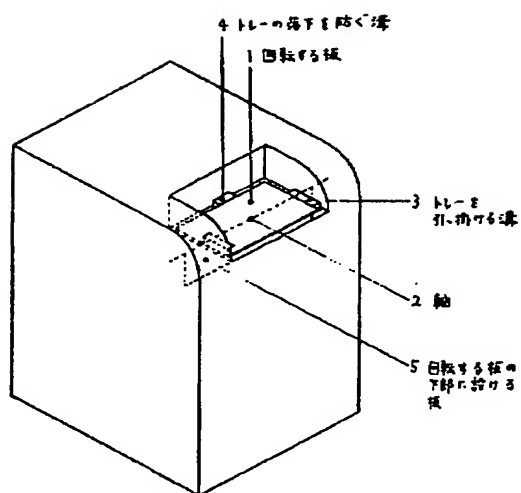
6 半円筒

7 ばね

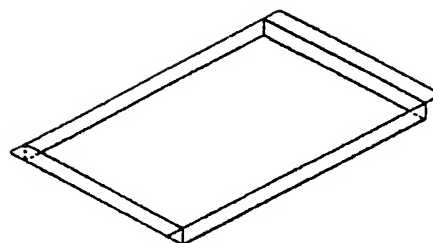
(5)

特開平5-124708

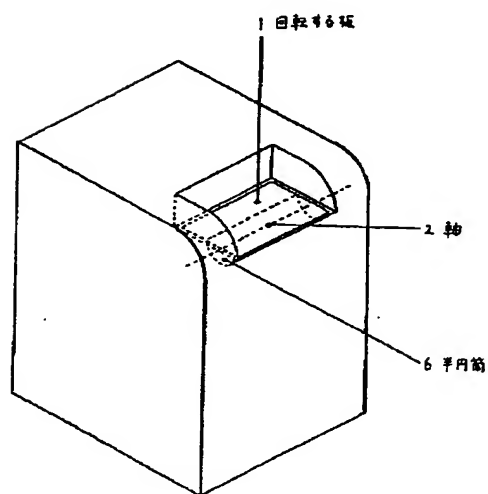
【図1】



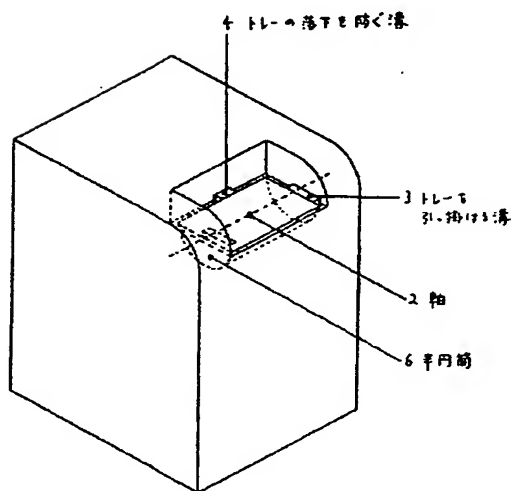
【図2】



【図4】



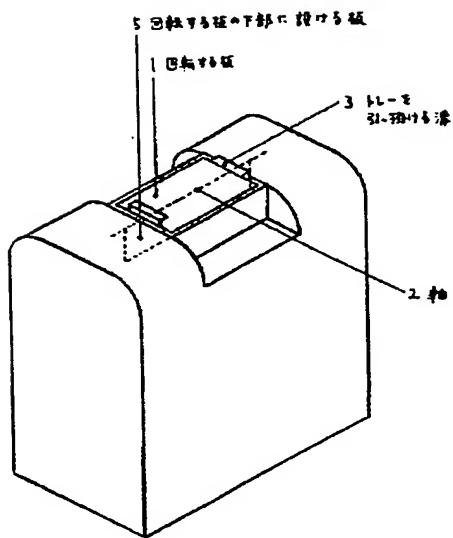
【図3】



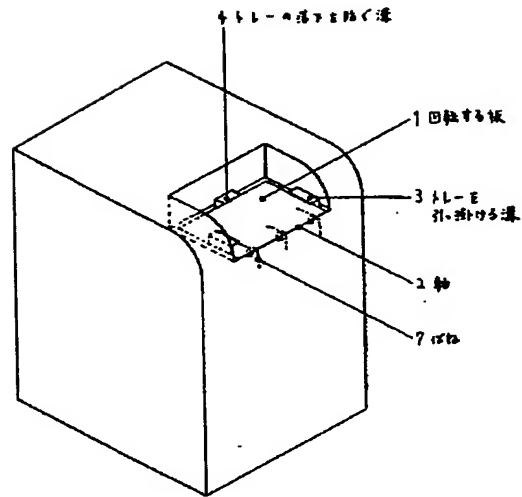
(6)

特開平5-124708

【図5】



【図6】



【図7】

